

## 2016年度助成分

### ■講演会等の名称

(講演会 1) 2017 J-WEN Mentoring Event

(講演会 2) J-WEN mentoring event at Econometric Society  
Summer School in Sapporo

研究代表者：

**安部由起子** (北海道大学・教授)

主催団体名/代表者名：

J-WEN

主な講演者名：

(講演会 1)

**Heather Anderson** (Maureen Brunt Professor of Economics and Econometrics, Monash University, Australia);

**Sara Ayllón** (Associate Professor, University of Girona, Spain);

**Hilde Bjornland** (BI Norwegian Business School, Norway, Professor);

**Yoosoon Chang** (Professor, Indiana University, USA);

**Marcelle Chauvet** (Professor, University of California Riverside, USA);

**Ana Galvao** (Associate Professor (当時), University of Warwick, UK);

**Soohyung Lee** (Associate Professor (当時), Sogang University, South Korea);

**Barbara Rossi** (ICREA Professor, Universitat Pompeu Fabra, Spain);

**Cindy Shin-Huei Wang** (Associate Professor (当時), National Tsing Hua University, Taiwan);

**Xueyan Zhao** (Professor, Monash University, Australia);

**Kayo Tajima** (Professor, Rikkyo University, Japan);

**Yukiko Abe** (Professor, Hokkaido University, Japan)

(講演会 2)

**In-Koo Cho** (University of Illinois (William S. Kinkead Professor,当時));

**Francoise Forges** (Universite Paris – Dauphine, Professor of economics);

**Takako Fujiwara-Greve** (Keio University, Professor);

**Debraj Ray** (New York University, Julius Silver Professor);

**Ariel Rubinstein** (Tel Aviv University and New York University, Professor);

**Bruno Strulovici** (Northwestern University, Professor)

会場名：

(講演会 1) ホテルエミシア札幌

(講演会 2) 北海道大学、人文社会科学研究所棟 W102 教室

実施期間：(講演会 1) 2017年6月25日～2017年6月25日

(講演会 2) 2019年8月11日～2019年8月11日

### 【研究の概要】

国際学会 (International Association for Applied Econometrics、以下 IAAE)、および、研究集会 (Econometric Society Summer School、以下 ESSS) にて、著名なシニア研究者と、女性若手研究者が集まる機会を活用し、シニア研究者にメンターを務めてもらい、女性若手研究者のメンティーを支援する、という形式で実施した。IAAE は計量経済学と実証経済学、

ESSS は理論経済学において国際的に高い評価を受けている学会であり、実証経済学と理論経済学の両面からこのようなイベントを開催できたことは、経済学研究分野を広くカバーする意味でバランスが取れた開催であったと考える。IAAE の理事から、このメンタリング・イベントに対して好意的な評価をいただいた。また 2019 年度の ESSS 後のメンタリング・イベントについても、ESSS の運営にかかわっている教授からポジティブな評価をいただいた。2 回の講演会の詳細は、以下のとおりである。

IAAE 学会の学会前日の 2017 年 6 月 25 日には、IAAE 学会に参加する女性研究者（若手及びシニア）が参加してメンタリング・イベントを実施した。前半に研究経験・実績のあるシニアの女性研究者がパネリストになり、論文投稿と査読のプロセスがどのようなものであり、実績を着実に公表していくためには何が必要かについて、パネル討論と質疑を実施した。後半では、若手女性研究者とシニア研究者が、研究分野別にグループに分かれ、若手が 1 人ずつ自身の研究を説明し、グループ内で、研究の改善のための議論を行なった。

ESSS の翌日の 2019 年 8 月 11 日には、サマースクールに参加した女性の大学院学生 9 名、および、北海道大学に所属する 2 名の女性の大学院生をメンティーとし、サマースクールの講師をメンターとするイベントを実施した。前半では、パネルディスカッション形式で、共同研究の実施、学会発表と学会参加、査読プロセスの対応、等のトピックスについて討論を行った。その後、メンターとメンティーから構成されるグループを作って、メンティーが個人の研究を発表し、グループで討論しフィードバックを行なった。

■講演会等の名称

- ①働く女性のパワハラ防止
- ②女性が輝く社会ってどんな社会？
- ③教授、その恋愛はセクハラです！
- ④今ハラスメント防止に何が必要なのか？
- ⑤二村さん、セックスって何ですか  
～相談現場に現れる性と恋愛～
- ⑥臨時開講！二村ゼミ@中澤研究室 1
- ⑦臨時開講！二村ゼミ@中澤研究室 2

研究代表者：

中澤未美子（山形大学大学院理工学研究所・准教授）

主催団体名/代表者名：

山形大学 学術研究院/中澤未美子

主な講演者名：

- ①上野千鶴子（東京大学名誉教授）、小酒部さやか（株式会社 naturallrights 代表取締役）
- ②野田聖子（衆議院議員）
- ③牟田和恵（大阪大学大学院教授）
- ④小島慶子（エッセイスト・タレント・東京大学大学院情報学環客員研究員）、  
渋谷典子（NPO 法人参画プラネット代表理事）
- ⑤～⑦二村ヒトシ（作家）、須藤八千代（愛知県立大学名誉教授）

会場名：

- ①名古屋大学 野依記念学術交流館
- ②及び③名古屋大学 National Innovation Complex
- ④山形大学 未来ホール（ハイブリッド開催）
- ⑤～⑦オンライン開催

実施期間：

- ①2017年6月10日（土） ②2018年12月20日（木） ③2018年12月25日（火） ④2020年11月24日（火）
- ⑤2021年6月26日（土） ⑥2021年8月7日（土） ⑦2021年9月11日（土）

【研究の概要】

5年間に渡り「働く女性のパワハラ防止－妊活ハラスメントからマタハラ・育ハラまで－」をテーマとする講演会開催への助成を頂き、著名な方々からハラスメント防止に関する最新の知見を、広く一般の方々と共有する機会を7回設けることができた。2017年度には、上野千鶴子氏から、これまでのキャンパスセクハラの問題解決実践経緯と今後のフェミニズムの潮流を、小酒部さやか氏からはマタハラ防止のポイントを講演いただいた。両者の講演後、名古屋大学東村博子教授と上野氏、小酒部氏との鼎談を行い、日本におけるセクハラ防止や女性

の地位向上について、フロアーとの意見交換が活発になされた。2018年度には、野田聖子氏から、日本の人口変動を概観したセクハラ発生・防止の機序や、国政におけるハラスメントに関する立法等に向けた動きを、牟田和恵氏からは、著書「部長、その恋愛はセクハラです！」をアカデミアに移行させた論考と、大学におけるセクハラ事案分析を教示いただいた。この講演会の参加者には、「セクハラ防止クッキー」を無料配布し、これについて日本経済新聞において2回に渡り取り上げられ、広くセクハラ防止について啓発ができたと考える。2020年度には、新型コロナウイルス防止の観点から、大々的な集合型講演会の開催は見送り、オンラインにおいて小島慶子氏から、自身がハラスメント防止について発信するようになった経緯等を、渋谷典子氏からは労働法や Decent Work の観点からハラスメント防止について講演いただくことができた。2021年度には、須藤八千代氏と二村ヒトシ氏から、恋愛や性愛、DV や性暴力に関して知見を述べて頂き、一般市民の方々と意見交換する場を設けることができた。

以上、この5年間で、多岐に渡る分野の有識者を招聘し、一般市民の方々とともにハラスメント防止について考える機会を設けることができた。引き続き、同様の機会が各所で設けられ、一人一人の心がけによってハラスメントの防止効果が高まることを期待する。貴財団に心よりお礼申し上げます。